中富良野

森林公園のいきもの

Animals and Birds in Nakafurano-Forest Park

秋・冬編

はじめに

中富良野町にはたくさんの生き物がすんでいます。

その中には、みなさんが知らない生き物もいるかもしれません。

そこで、中富良野町にすむ生き物たちを多くの人に知っていただき、興味を持ってもらいたい、そして、生き物が好きな人にはもっと好きになってもらいたいという想いから、彼らを紹介するためのガイドブックを作成することにしました。

このガイドブックでは、中富良野森林公園にすむ生き物たちの見た目や、食べているもの、ユニークな特徴などを紹介しています。

また、たくさんの写真を使って、子どもたちや外国の方など、どなたでも楽しんでいただけるような工夫も凝らしています。

冬毛、冬羽に生えかわったエゾリスやシマエナガなどの鳥獣や、この季節だけに姿を見せる冬鳥たちなど、春や夏では見られないこのシーズンならではの森林公園の生き物たちの姿をお楽しみください。

そして、本書を通じてたくさんの魅力的な生き物たちと、彼らが暮らす自然豊かな中富良野町を好きになっていただけたなら幸いです。

森林公園のいきもの

The animals and Birds of Nakafurano-Forest Park

目次

Contents

- 北海道だけで見られるいきものたち ---- (4)
- エゾリス ---- (5)
- キタキツネ ---- (7)
- エゾユキウサギ ---- (8)
- ハシブトガラ ---- (9)
- シマエナガ ---- (10)
- アカゲラ ---- (11)
- ヤマゲラ ---- (12)
- 外来種について考えよう ---- (13)
- オジロワシ ---- (15)
- 野生動物はペットにできる? ---- (17)
- コゲラ ---- (18)
- ヒレンジャク ---- (19)
- ツグミ ---- (20)
- ミヤマカケス ---- (21)
- キクイタダキ ---- (22)
- シジュウカラ ---- (23)
- ゴジュウカラ ---- (24)
- ヒヨドリ ---- (25)
- キバシリ ---- (26)
- いきものを見くらべてみよう ---- (27)
- その他の森林公園の生き物たち ---- (28)

北海道だけで見られる生き物たち

■北海道は、日本でも独自の生き物たちがすんでいます。

同じ日本でも、北海道と道外ではすんでいる生き物に大きな違いがあります。
本州から津軽海峡を境に、エゾリス、エゾヒグマ、ハシブトガラなど、日本では北海道にしか生息しない独自の生き物たちが見られるようになります。
そのような北海道にしか生息しない生き物を、北海道の「固有種（こゆうしゅ）」と呼びます。
また、ミヤマカケス、シマエナガ、キタキツネなど、本州以南とは違う姿を見せる生き物は、北海道の「地域亜種（ちいきあしゅ）」と呼び、生き物によっては、全く別の種に見えるほど違いが見られるものもいます(たとえば、本州に生息するエナガに対し、北海道のシマエナガでは頭部の眉のような黒い模様が見られず、体色はより白い）。
ここ中富良野にも、北海道にしか見られない生き物たちがたくさんすんでいます。

■エゾリス

■ヤマゲラ

■キタキツネ

■シマエナガ

■ハシブトガラ

■エゾシカ

▲北海道の固有種（こゆうしゅ）
北海道にしか生息しない生き物です。
（日本国外では生息しているものもいる）

▲北海道の地域亜種（ちいきあしゅ）
北海道では、他の地域とは別の特徴を見せる生き物です。（ホンドギツネに対するキタキツネ、ホンシュウジカに対するエゾシカなどがこれに当たる）

■エゾリス

■学名　Sciurus vulgaris orientis

■　哺乳綱　ネズミ目　リス科

レア度　☆

冬でも元気な北海道のリス

■すんでいるところ　北海道だけにすんでいます。
普通は森林に生息しますが、公園や民家にも姿を見せます。

■習性　冬眠をしないため、一年中姿が見られます。
食べものの少ない冬に備え、秋の間にドングリや松ぼっくりなどの食料を、地面や木の洞などにため込んでおく習性があります。

▲冬のエゾリス。エゾリスは冬と夏で見た目が違います。
冬毛では耳の毛が上に伸び、耳が長く見えます。

▲夏のエゾリス。夏毛では全身の毛が短くなり、細身で小柄に見えます。

■キタキツネ

■学名　*Vulpes vulpes schrencki*

■　哺乳綱　ネコ目　イヌ科

レア度　☆☆☆

雪にダイブするユニークな狩り

■すんでいるところ　日本では北海道だけにすむキツネです。森林、平地、市街地など広く生息し、民家にも姿を見せます。

■習性　するどい感知能力で雪の下にいるノネズミ類を見つけ、雪に頭からダイブしてつかまえます。姿の見えないノネズミを音やにおいだけではなく、磁場で感知して見つけているとも言われています。

■エゾユキウサギ

■学名　Lepus timidus　ainu

■　哺乳綱　ウサギ目　ウサギ科

レア度　☆☆☆☆

撮影：富良野市博物館・澤田建　氏

冬は雪のように真っ白なウサギ

■見た目　夏は茶色の毛色をしていますが、冬になると雪のように真っ白な冬毛に生えかわります。この真っ白な毛は雪の上では保護色となり、天敵から見つかる危険を減らします。

■食べもの　草食で、野草を主食としています。
冬になると雪の下の草を掘り起こして食べたり、木の皮や葉などを食べます。

■ハシブトガラ

■学名　Poecile palustris hensoni

■　鳥綱　スズメ目　シジュウカラ科

レア度　☆

黒い帽子とあごひげが特徴

■住んでいるところ　日本では北海道だけに住んでいます。
道外には生息しない鳥ですが、道内では全道で普通に見られます。

■見た目　頭頂とのどが黒く、ベレー帽とあごひげのように見えるのがハシブトガラの特徴です。またくちばしの合わせ目が白いことで、コガラというそっくりな鳥と区別できます。

■シマエナガ

■学名　Aegitalos caudatus japonicus

■　鳥綱　スズメ目　エナガ科

レア度　☆

白くてふわふわな雪の妖精

■すんでいるところ　日本では北海道だけにすんでいます。

■見た目　白くてふわふわなかわいらしい見た目からとても人気のある野鳥で、別名「雪の妖精」とも呼ばれています。
白い羽は冬羽で、夏はほっそりとしていて羽毛の色も違います。

■ヤマゲラ

■学名　Picus canus

■　鳥綱　キツツキ目　キツツキ科

レア度　★★★

■緑色の翼の大型キツツキ

■すんでいるところ　日本では北海道だけに生息します。
主に森林などで姿が見られます。

■見た目　背中から翼にかけての、緑色の羽毛が特徴です。
アゴのあたりにはヒゲのような黒い模様があります。

■アカゲラ

■学名　*Dendrocopos major*

■　鳥綱　キツツキ目　キツツキ科

レア度　☆

■赤白黒の三色のキツツキ

■すんでいるところ　森林にすんでいますが、適応力が高いので平地や市街地など様々なところで見られるので観察の機会が多い野鳥です。

■見た目　黒白赤の三色の体色が特徴で、黒い翼には白いまだら模様が並びます。また肩羽には楕円形の大きな白い模様があります。

外来種について考えよう

■外来種って、カミツキガメみたいな危ない生き物でしょ？

外来種という言葉は皆さんもよく聞いたことがあると思います。
では外来種とはどういう生物のことを指すのでしょうか。
一般的なイメージではアライグマやカミツキガメのような、外国からきた危険で有害な生き物を思い浮かべるかと思います。
彼らもまた外来種ですが、外来種は人間への危険性などから判断されるものではなく、本来その地域に生息していなかったのに人の手によって入り込んでしまった生き物は、同じ国内の種であってもすべて外来種と呼びます。

■外来種がいたらダメなの？

最近では外来種を持ち込まないようにしたり、駆除しようという動きが増えてきています。

では、なぜそのような活動をする必要があるのでしょうか。

それは外来種が人間へ直接害を及ぼすだけでなく、彼らが与える影響が在来種（元々その地域にすんでいた生き物）にとって深刻な問題になるかもしれないからです。

アライグマやカミツキガメのような人間にとって危険な外来種も、もちろん見逃せない問題です。

しかしそれだけではなく、外来種は在来種を絶滅に追い込む危険があるのです。

弱い在来種は外来種に捕食され、すみかを奪われます。

たとえ外来種に襲われないような強い在来種であっても、すみかやエサの奪い合いになり、次第に数を減らしていくことになります。

それを放っておけば、いずれ外来種が在来の生き物を滅ぼしてしまうことになりかねません。
しかし、外来種を連れてきたのも私たち人間である以上、彼らを一方的に悪者にすべきではないと思います。
外来種の影響を理解し、その上で外来種をどう扱うべきか、皆さんも考えてみてください。

▲オーストラリア原産のトカゲ。
ペットショップで買った生き物はほとんどが外来種です。
外に逃がすことは、外来種を生態系に放つことに他なりません。

■外来種による影響

外来種による影響は、下の図に示すように大きく分けて4つに分類できます。
「■外来種がいたらダメなの？」にも記述したように、外来種はさまざまな問題をもたらします。
深刻な事態を避けるためにも、外来種を不用意に持ち込んだり、繁殖させたりしないようにしなければなりません。

人間への被害

人や家畜にケガを負わせたり、農作物を食害するなどの、人間への直接的な被害を与える。

生態系への影響

在来種の捕食、すみかや食べ物の競合などにより、生態系のバランスを乱し、在来種を減少や絶滅に追い込む。

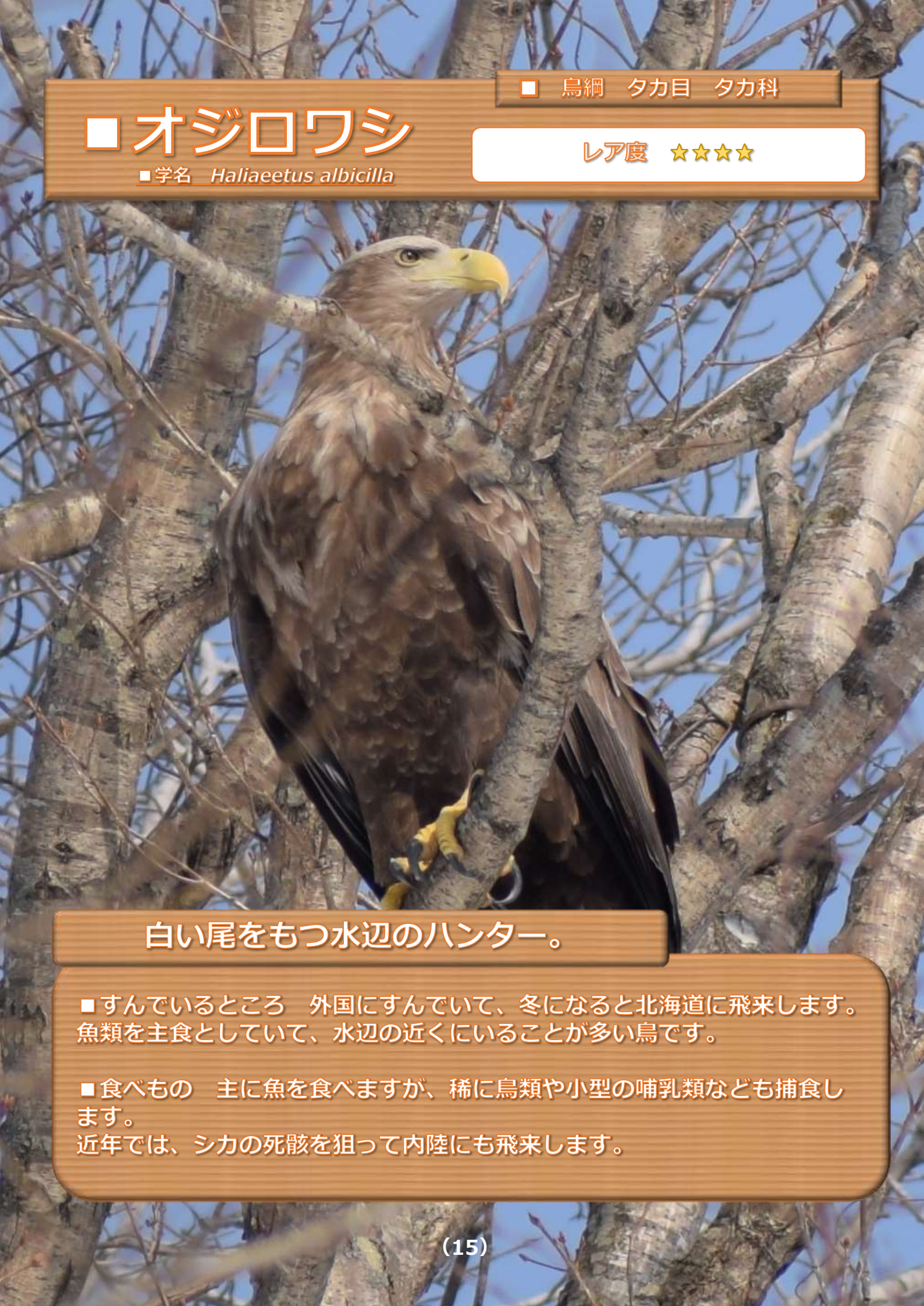
遺伝子汚染

在来種と交雑し、雑種が生まれることで、本来の在来種の遺伝子を絶やしてしまう危険がある。

病気・感染症

外来種が、その地域になかった病原菌やウィルスを持ち込む危険がある。在来の動植物だけではなく、人間にまで被害が及ぶ恐れがある。

◀エゾリスは北海道だけに住んでいる生き物です。
外来種の影響で、エゾリスのような一部の地域にしか生息しない在来種が絶滅したら、もう世界中のどこでも見られなくなってしまいます。



■ 鳥綱　タカ目　タカ科

■オジロワシ

■学名　*Haliaeetus albicilla*

レア度　★★★★

白い尾をもつ水辺のハンター。

■すんでいるところ　外国にすんでいて、冬になると北海道に飛来します。
魚類を主食としていて、水辺の近くにいることが多い鳥です。

■食べもの　主に魚を食べますが、稀に鳥類や小型の哺乳類なども捕食します。
近年では、シカの死骸を狙って内陸にも飛来します。

▲飛翔するオジロワシ。
名前の由来でもある白い尾が特徴的です。
オジロワシは非常に大きなワシで、翼を広げた大きさは2メートルを超えるものもいます。

▲山中に飛来した日本最大のワシ、オオワシ。
オジロワシと同じく尾が白く姿が似ていますが、オオワシの方が大柄でくちばしも大きいのが特徴です。
加えて、くちばしと足の色はオジロワシより鮮やかな黄色です。

野生動物はペットにできる？

■　哺乳類と鳥類は捕まえてはいけません！

野生にはエゾリスやシマエナガのようなとてもかわいい生き物がいます。
そういったかわいい野生動物をペットにしたいと思う方もいるかもしれません。
ですが、残念ながらエゾリスやエナガをつかまえて飼育することはできません。
それは、「鳥獣保護法」という法律で、狩猟鳥獣を除く野生の哺乳類と鳥類をつかまえることが禁止されているからです（許可を得れば飼育できますが、基本的に個人への許可はされません）。
彼らのかわいらしい姿は観察にとどめましょう。

■哺乳類や鳥類は許可なしに捕まえることができません。注意しましょう。

■　虫やカエルも捕まえちゃいけないの？

カブトムシやアマガエルなどの生き物を捕まえて飼うことは違法ではありません。
鳥獣保護法は、「鳥類または哺乳類に属する野生動物」を保護する法律です。
なので、鳥と哺乳類以外の動物を捕まえて飼育するのは違法にはあたりません（ただし天然記念物、特定生物などの一部例外があるので注意してください）。
捕まえてペットにする時は、飼育方法をしっかり調べて、大事に飼ってあげてください。

◀もしも、捕まえた生き物を逃がす時は、元いた場所に逃がしてください。
生態系を乱してしまう可能性があります。

▶ペットを飼うときは、何を食べるのか、どんな環境を用意してあげる必要があるのか、調べてから飼うようにしてあげてください。

■ コゲラ

■学名 Dendrocopos kizuki

■ 鳥綱　キツツキ目　キツツキ科

レア度　☆☆

日本最小のキツツキ

■見た目　頭は茶色、背中は全体的に暗い茶色で横に白い帯模様があります。腹は白く、縦に茶色のまだら模様が見られます。
日本に住むキツツキ類の中で一番小さな種です。

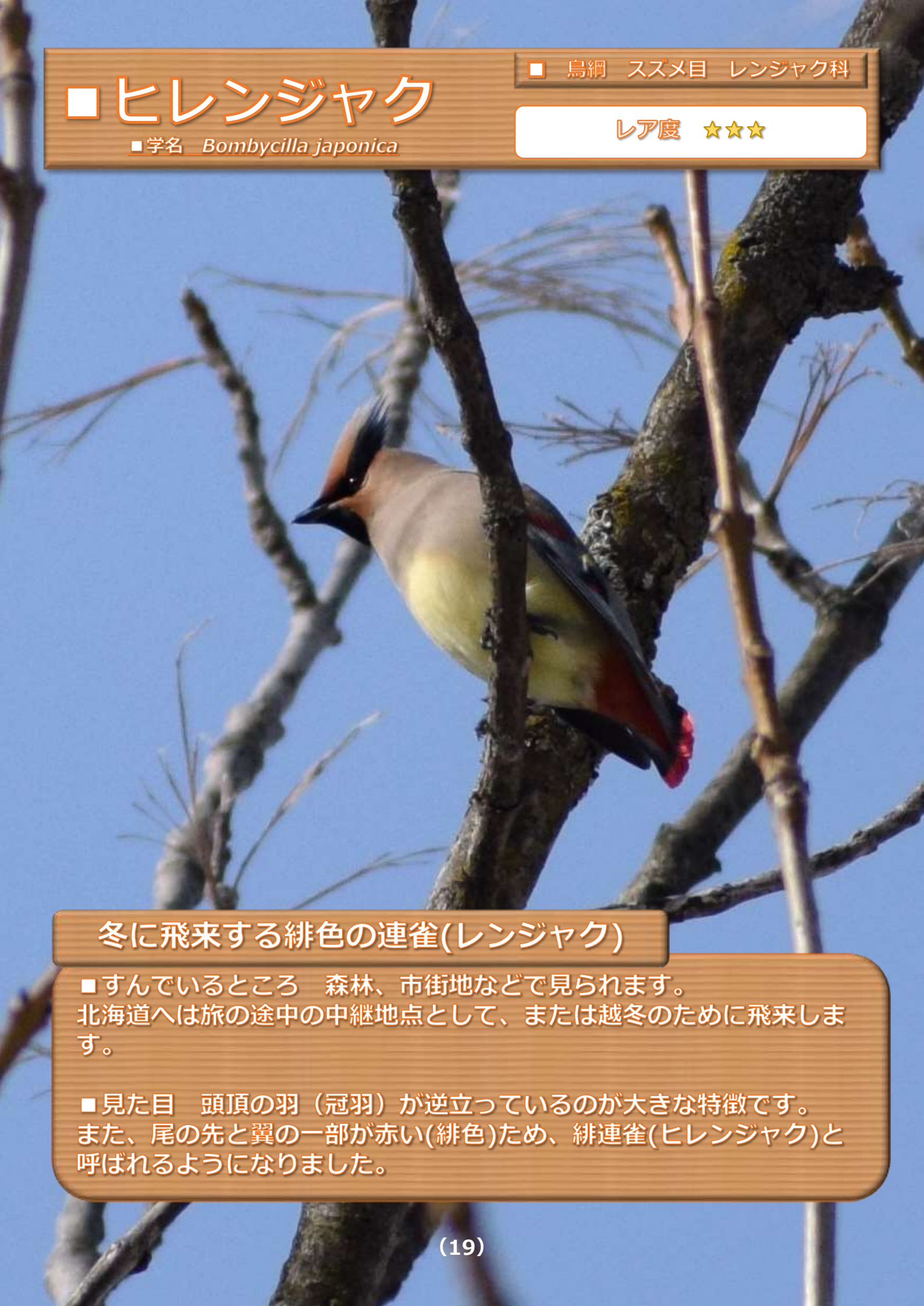
■食べもの　昆虫類や、クモなどが主食で、その他には木の実なども食べます。

■ヒレンジャク

■学名　*Bombycilla japonica*

■　鳥綱　スズメ目　レンジャク科

レア度　★★★



冬に飛来する緋色の連雀(レンジャク)

■すんでいるところ　森林、市街地などで見られます。
北海道へは旅の途中の中継地点として、または越冬のために飛来します。

■見た目　頭頂の羽（冠羽）が逆立っているのが大きな特徴です。
また、尾の先と翼の一部が赤い(緋色)ため、緋連雀(ヒレンジャク)と呼ばれるようになりました。

■ ツグミ

■学名　*Turdus eunomus*

■ 鳥綱　スズメ目　ツグミ科

レア度　★★★

夏には無口な鳥？

■すんでいるところ　森林、草原などで見られます。
秋から冬にだけ日本に飛んでくる冬鳥で、夏前には日本から飛び立って外国に戻ってしまいます。

■名前の由来　上記の理由で夏には鳴き声が聞こえず、夏に口をつぐむ（鳴かない）鳥としてツグミと名付けられました。

■ミヤマカケス

■学名　*Garrulus glandarius brandtii*

■　鳥綱　スズメ目　カラス科

レア度　★★

オレンジ頭のカラフルなカラス

■見た目　オレンジ色の頭と、青白黒の三色のパッチ模様の翼が特徴の鮮やかな鳥です。

■鳴き声　「ギャーギャー」「ジェー、ジェー」などとにごった声で騒がしく鳴きます。
他の種の鳥やネコなどの鳴き声の真似をするというユニークな特技も持っています。

■キクイタダキ

■学名　*Regulus regulus*

■　鳥綱　スズメ目　キクイタダキ科

レア度　☆☆☆

日本最小の鳥の王様。

■見た目　非常に小さな日本最小の鳥です。
頭頂の、黒い羽に囲まれた黄色い羽が特徴で、キクの花を乗せている（頂いている）ように見えるためキクイタダキと名付けられました。
オスでは黄色い羽の中心にオレンジの羽が見られます。
ヨーロッパでは頭の羽はかんむりに見立てられ、鳥たちの王様とされています。

■シジュウカラ

■学名 *Parus minor*

■　鳥綱　スズメ目　シジュウカラ科

レア度　☆

黒いネクタイと黄色い背中

■すんでいるところ　森林、平地、公園、市街地など、あらゆるところで広く見られます。

■見た目　大きさはスズメほどで、頭は黒く、ほおが白い。のどから尾まで通るネクタイ状の黒い帯と黄色い背中が特徴です。

■ゴジュウカラ

■学名 *Sitta europaea*

■　鳥綱　スズメ目　ゴジュウカラ科

レア度　☆

逆さまに木をおりる森林のニンジャ

■見た目　スズメほどの大きさで、体の上の面が青みがかった灰色で、のどからお腹までの下面が白くなっています。目の前から後ろまで一直線に黒い線が通ります。

■習性　地面に頭を向けた逆さまの体勢で木の幹を移動するのは、ゴジュウカラならではの特徴です。

■ ヒヨドリ

■学名　*Hypsipetes amaurotis*

■　鳥綱　スズメ目　ヒヨドリ科

レア度　★★

茶色のほっぺたが特徴

■見た目　体長は27ｃｍでハトより二回りほど小さく、尾が長い。
全身がほぼ灰色で、ほおが茶色いのが大きな特徴です。
また、胸からお腹までに白いまだら模様があります。

■食べ物　甘いものが好きで、果物や樹液、花の蜜などを好んで食べます。

■キバシリ

■学名　*Certhia familiaris*

■　鳥綱　スズメ目　キバシリ科

レア度　★★

木にそっくりの色と模様

■すんでいるところ　森林に住んでいます。
少し標高の高いところにすんでいる鳥ですが、北海道では平地などでも見られるます。

■見た目　スズメほどの大きさで、体の背中側は木肌のような、茶色と白が入り交じった複雑なまだら模様をしていて、腹側は白色です。

いきものを見くらべてみよう

■いきものの見分け方

「むづかしや　どれが　四十雀（シジュウカラ）五十雀（ゴジュウカラ）」

有名な俳人、小林一茶が詠んだ句です。

生き物は多くの種類がいるので見分けるのは難しいですよね。

この句を聞くに、昔の人も生き物の種類を判別するのは難しいと思っていたようです。

そこで、このコラムでは生き物を見分けるための3つのポイントを下の図にご紹介します。

ポイントを押さえて観察すれば、今よりもっと生き物に詳しくなれるでしょう。

■シジュウカラ（左）とゴジュウカラ（右）。
シジュウカラは、首のネクタイのような黒い帯模様がポイント。背中のあたりが黄色いのにも注目。
ゴジュウカラは、青みがかった灰色の羽がポイント。目の前後には黒い線があります。
よく観察して特徴を見れば簡単に見分けられます。

生き物を見分ける３つのポイント

●季節や場所

その季節や場所でしか見られない生き物がいます。

例えば、陸に魚やヒトデはいませんし、冬に夏鳥を見つけることも難しいと思います。

季節や場所は種類を見分ける重要なポイントです！

●見た目や鳴き声

大きさ、色、形、模様などの見た目は大きな判別ポイントです！

シジュウカラはネクタイのような模様が特徴的ですね。

鳴き声をあげる生き物は声で判別することもできます。

●動きや習性

ゴジュウカラは、地面に頭をむけた逆さまの状態で木を降りていくことができます。

これはゴジュウカラならではの習性です。

このような特徴的な動きや習性があれば見分けるポイントになります！

その他の森林公園の生き物たち

■ヒガラ

■ヤマガラ

■エゾライチョウ

■ハシブトガラス

■オオアカゲラ

■エゾクロテン
（撮影：長利　隆一氏）

主な参考文献

河井大輔・川崎康弘・島田明英・諸橋淳（2016）『新訂　北海道野鳥図鑑』［第2版］亜璃西社

徳田龍弘（2015）『改訂版　北海道爬虫類・両生類ハンディ図鑑』［改訂版］北海道新聞社

大橋弘一（2016）『北海道野鳥観察地ガイド』［第2版］北海道新聞社

安西秀明・箕輪義隆・瀬古智貫（2010）「見る読むわかる野鳥図鑑」日本野鳥の会

日本野鳥の会（2018）「フィールドガイド日本の野鳥」［増補改訂新版］日本野鳥の会

山口喜盛（2017）『フィールドで出会う哺乳動物観察ガイド：生態写真でわかる探し方や見わけ方のポイント』　誠文堂新光社

「北海道レッドデータブック」〈rdb.Hokkaido-ies.go.jp/index.html〉（参照2019-2-7）

「富良野の四季を遊びつくす！　北の動物たち」〈www.furanotourism.com/jp/bigkey/seasons/animals.php〉（参照2019-2-12）

北海道（2010）「北海道の外来種リスト－北海道ブルーリスト2010-（www.pref.Hokkaido.lg.jp/ks/skn/alien/bluelist/bluelist_top.htm）（参照2019-2-12）

制作
　中富良野町地域おこし協力隊　田中信哉

制作協力
　富良野市博物館　　様
　富良野市博物館・泉団　　様

写真提供
　富良野市博物館・澤田建　様
　長利　隆一　　様

エゾクロテン　撮影:長利隆一　氏